

N E D O次世代浮体式洋上風力発電システム実証研究計画段階環境配慮書 に対する市長意見

1 事業計画の具体化にあたり配慮すべき検討事項

事業実施想定区域は、白島を繁殖地としているオオミズナギドリの飛翔ルートになっており、カラスバト等の重要な鳥類も確認されていることから、風力発電施設の位置選定等、事業計画の具体化にあたっては、鳥類への環境影響を回避・低減するよう十分に配慮すること。

2 事業実施期間について

本配慮書には、実証研究終了後の事業計画について記載が無いため、事業者としての考え方を方法書に記載すること。

3 方法書以降の環境影響評価手続に向けた留意事項

(1) 海底の係留設備について

海底の係留設備については、海底チェーンの動きに伴う底質の巻き上げ等が環境影響要因と成り得るか、本配慮書の記載内容では判断が難しいため、方法書において説明を追記すること。

また、方法書以降の環境影響評価では、海底の係留設備による漁礁効果やそれに伴う鳥類の採餌行動との関係について検討すること。

(2) 送電線ケーブル埋設工事について

本配慮書では、送電線ケーブルの位置が明確に示されていないが、埋設工事に伴う環境影響が予想されるため、方法書において工法及びルート案を具体的に示すとともに、環境影響要因に選定すること。

(3) 鳥類に関する環境影響評価について

本配慮書では、計画段階環境配慮として、ハチクマを対象種とした風車への接触率による予測評価を行っているが、当該種の飛翔高度は、風力発電施設の高さより更に数百メートル程度高いと考えられる。方法書以降の環境影響評価においては、現地調査結果を踏まえて、適切な種の選定及び予測を行うこと。

(4) 海棲哺乳類等に関する環境影響評価について

水中音による海棲哺乳類等への環境影響評価にあたっては、周波数特性を考慮するとともに、既に稼動している浮体式洋上風力発電の水中音の実測値を参考にする等、適切な音源音圧を設定すること。

また、事業実施想定区域周辺で生息が確認されているスナメリを環境影響評価の対象種に選定すること。